



を知った。私は中学から高校時代にかけて、郷土の画家に触れ合う機会に恵まれた。中学時代、姉を介して調慧心先生を、母の従妹の養父、井上三綱氏には、いろいろな話を聞く機会を得た。杉森麟先生には美術史を、高校では井上自助先生に美術部で指導を受け、在職中に田代喜玖先生に出会い、退職後、今日まで丁寧な指導を受けている。私の絵に対する姿勢は、感動したものは何でも描くし、描き方は一定していない。いいと思ったものは何でも取り入れ、キャンバスにパッションを打ちつける。美しいものの、動的な生命の息吹、静的で清らかなものなど、何を描くにも、そこに物語を見出したいと思っている。絵は劇的でないければと。筆を杖として生きたい。

私が絵に関心をもったのは、小二の時、職員室の壁に広い空とその下に広がる山波を描いた油絵を初めて目にした時からのように思う。後にそれが、今所属してる創元会の大先輩、倉員辰雄氏のものであること

楽しい仲間たち

正空会八女支部は日本四大空手道会直系の空手道です。師範の川口善文先生が昭和59年9月に創設されました。八女市総合体育館を拠点に活動しています。日頃から基本・形稽古を中心とした鍛錬により、主に出場している3大会（正空会空手道大会・全九州和道空手道大会・久留米地区空手道大会）では、毎年輝かしい成績を残しています。子どもは武道を通して礼儀作法を身につけることができ、大人は生涯スポーツとして楽しめます。また保護者会を中心とした年間行事（バーベキューや年始の鏡開き等）ではみんなで楽しく和気藹々と親睦を深めています。

練習 八女市総合体育館 木・土曜日(第2土曜日 休み)
忠見小学校体育館 火曜日 19:00~21:00

対 象 下は4～5歳より上は年齢不問 見学は自由です。
お気軽にお越し下さい。連絡先0943-24-3438(川口)



私達は、地域の皆様、一人ひとりが元気に安心して喜んで暮らせる為に最高の治療と心を込めたサービスを提供しつづけます。皆様の喜びと笑顔のために。を经营理念に掲げその実現のため活力朝礼を取り入れています。

和、報告連絡事項と盛りだくさんです。中でも特に重要視しているのが挨拶と返事の仕方です。

朝の貴重な時間を単に報告連絡だけで終わらせず職員の教育の場、基本動作の習得、チームワークの向上、完全燃焼のスク

八女市山内 電話094
 322-3560
 活力朝礼を取り入りたい
 方は、筑後倫理法人会
 事務局0942-4212
 815迄

大住整骨院さんの朝礼風景

朝礼は毎日朝8時20分から10分間。挨拶とハイの返事を繰り返し、繰り返し、練習します。

その後職場の教養の輪読、7 acts（セブンアクト）・プロ

タートラインづくりにつなげたいと考えています。

今後朝礼を通して、やりがいのある、働きやすい職場作りにつとめ職員それぞれが、社会に貢献できる人材となるよう努力していきます。

当社では介護ヘルパーを募集しています。明るく元気な職場です。一緒にはたらかいませんか。まずは、お電話ください。

大住整骨院・訪問介護のさくら・介護ステーション



本会は、歩くことを通して自然に親しみ、地球環境を考え、会員相互の親睦と健康増進を図り、ひいては活力あるふるさと（八女）づくりに貢献することを目的に、平成15年4月設立しました。（杉山信行会長・会員62名）主な活動として、毎月の定例ウォーク、近隣で開催されるウォーキング大会への参加、県内外への日帰りバスウォーク、宿泊での遠征ウォークなどを実施しています。日本ウォーキング協会が取り組んだ「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に、私たちが誇りとする「八女丘陵古墳群を訪ねるみち」が選ばれています。今や全国のウォーカーが、北海道から沖縄までの、500選完歩に挑戦しています。歩くことは最も経済的で、誰にでもすぐに始められる健康づくりです。この春こそ、あなたも一歩、歩き出してみませんか。皆さんの参加を待っています。申し込み・問い合わせは☎090-3326-3133 鶴迄。10周年記念式典、祝賀会は4月28日（日）午前11時、八女市社会福祉会館で開催。会費3,000円。入会希望者も参加できます。

旅の途中

「善女の会」と名付けた友人四人で、九州新幹線さくらに初めて乗車して指宿へ、一泊二日の旅に出た。雨女が二人居たにも拘わらず、二月下旬の空は眩しいほどに晴れ渡っていた。共に五十二歳、長男の嫁にして必然的に同居、それぞれがフルタイムで働く現役で、半年前から休暇を申し出てようやく実現した、善女の会にとっても初めての旅だった。

鹿児島中央駅で、大学受験へ向う黒い学生服の一团に出会う。擦れ違いざま「ここにいる皆がライバルだ」と言う険しい声が聞こえる。私は心の中で呟く。「力を抜いて、まだまだあなたは旅の途

中よ」と。目的地までの切符をどんなに握り締めていても、途中下車することだつてある。

一目で新婚旅行だとわかる初々しいカッブル、菜の花色の大きなトラックを、手を繋いだまま引いていた。また私は呟く。「おめでとう、旅は往路より復路が大切だよ」

かつて一度、白い麻の葉模様の風呂敷に包まれた、骨箱を抱く男性の隣に乗り合わせたことがある。「どこまで行かれますか。無事に辿り着いて下さいね」と胸底深く合掌した。

始まりがあつてまだ終わらないうちは、全てが途中。私は今、指宿への旅の途中、そして人生の旅の途中。そんなことを思いながら、乗り換えのホームへ急いだ。 蓉子